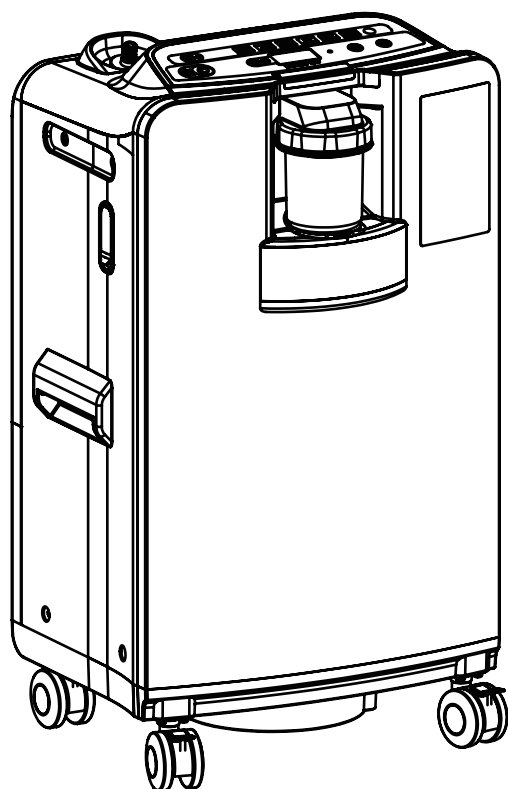


オーソー O₂グリーン5S1

取扱説明書



■お願い■

- ・本装置は医師の処方および指示に従ってお使いください。
- ・ご使用の前に必ず取扱説明書をよく読み、よく理解をしてからお使いください。
- ・この取扱説明書に規定した方法以外でのご使用をなさらないでください。
- ・本装置に故障や異常が起きた場合には、電源スイッチを切り、緊急連絡先にご連絡ください。
- ・本取扱説明書は、お読みになった後、いつでもご覧になれるよう、お手元に保管してください。

はじめに	2
安全上のご注意	5
次のものがそろっていますか	16
各部の名称	17

準備	19
電源を接続する	19
加湿器をセットする	20
カニューラを接続する	23
酸素吸入	24
停止のしかた	28

お手入れ	29
仕様	33

酸素が出てこない	34
警報とランプが異常を知らせたら	35
緊急連絡先	裏表紙

ご使用の前に

ご使用方法

お手入れ・その他

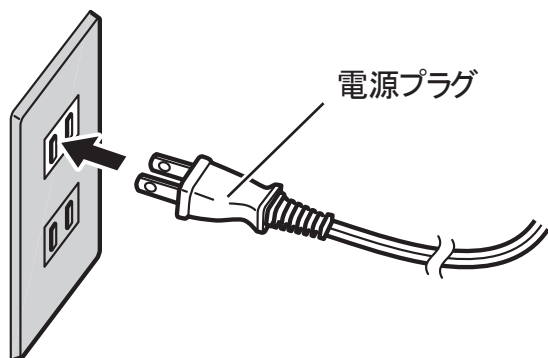
こんなときには

はじめに

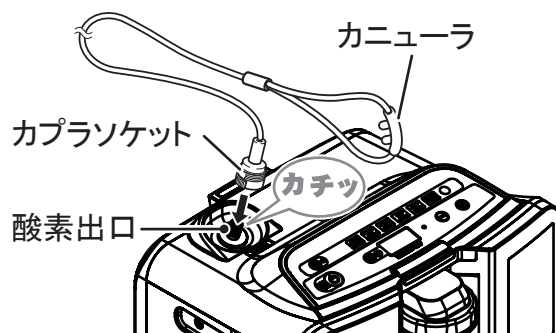
- ご使用方法では、こんなことを説明しています。

● 詳しくは19～28ページをお読みください。

- ① 電源プラグをコンセントに差し込む。



- ② カニューラをつないだカプラソケットを酸素出口に差し込む。

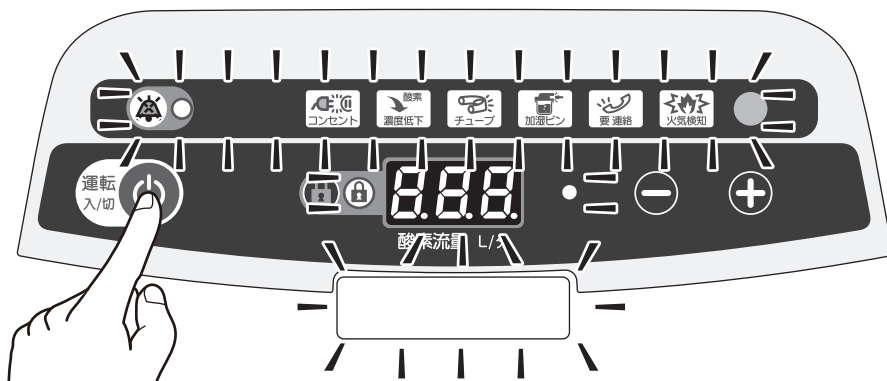


『カチッ』と音がするまで酸素出口に差し込む。

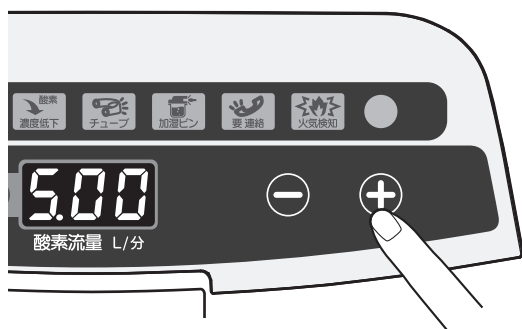


- ③ 電源スイッチを押して、電源を入れる。

※ 『ポーン』と音が鳴り、すべてのランプが2秒間点灯する。



- ④ ボタンを押して流量を設定する。



- ⑤ カニューラを鼻に装着して吸入する。



● 使用目的

本装置は、酸素吸入療法を行う患者さまが、酸素を吸入するために使用します。また、本装置は室内の空気を独自のプロセスを通すことにより、高濃度の酸素として供給するものです。

● 特長

住み慣れた環境のもとで、よりよい酸素吸入療法を行っていただくために、操作性、安全性、ランニングコストの面にも十分に配慮したコンパクトな酸素濃縮装置です。

- 小型、軽量の酸素濃縮装置です。
- 万一、カニューラに引火し、本体の酸素出口が過熱した場合、自動的に装置を停止させる安全機能を装備しています。

● 本書に使われている表示について

- 本書では表示内容に従わず、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

 禁忌・禁止	絶対に行ってはいけないことを示します。 ・誤った使いかたにより、死亡または重傷を負う可能性があります。
 警告	特に注意していただきたいことを示します。 ・誤った使いかたにより、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。
 注意	使用にあたり、一般的な注意を示します。 ・誤った使いかたにより、傷害を負う可能性または物的損害※の発生が想定されます。 ※物的損害とは、家屋、家財および家畜、ペットにかかわる拡大損害を示します。

● 機器に使われている表示について

	交流(AC)であることを示しています。
	直流(DC)であることを示しています。
	保護の程度がB形装着部であることを示しています。
	クラスⅡ機器の安全基準を満たしていることを示しています。
	火気を近づけてはいけないことを示しています。
	タバコを吸ってはいけないことを示しています。
	機器を分解してはいけないことを示しています。
	グリース・油などを使用してはいけないことを示しています。
	カニューラや延長チューブを折り曲げたり、踏みつけたりしてはいけないことを示しています。
	携帯電話、無線機などの電磁波を発生する機器を使用してはいけないことを示しています。
	無線通信機能を有していることを示しています。 (無線通信機能搭載モデルのみ)
	以下のことを示しています。 ・2.4GHz帯を使用している。 ・変調方式がその他の方式である。 ・電波干渉距離が10m以下である。 ・2.400GHz～2.4835GHzの全帯域を使用している。 (無線通信機能搭載モデルのみ)
	取扱説明書に従うことを示しています。

安全上のご注意

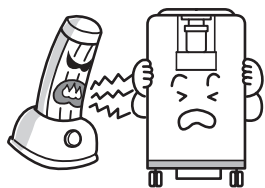
⚠ 禁忌・禁止

本装置は、主として慢性閉塞性肺疾患などの呼吸機能障害のある方の呼吸を補助するために使用するもので、生命維持装置ではありません。

本装置に床への落下や転倒などによる衝撃が加わった場合は使用しないでください。

外観に異常がなくても、内部が破損していることがあります。点検を依頼してください。（本書裏表紙記載の緊急連絡先）

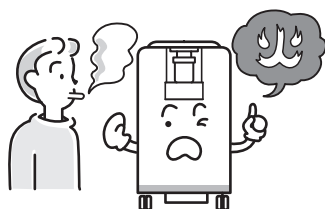
⚠ 警告



本装置およびカニューラから2m以内に熱器具などの火気を近づけないでください。

また、火花および炎が発生する可能性のある場所で本装置を使用しないでください。

やけど・火災の原因となります。



酸素吸入しているときは、周囲の人を含めて喫煙しないでください。また、本装置が停止していても、喫煙しないでください。

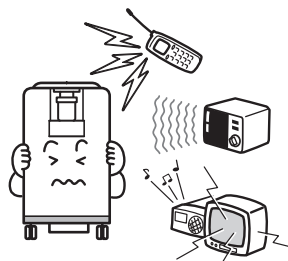
やけど・火災の原因となります。



停電や故障などの緊急時に備えて、あらかじめ医師と相談して緊急用酸素ボンベをすぐに使用できるようにご用意ください。

緊急時の備えが不十分で酸素吸入を十分に行えない場合、低酸素血症などの症状があらわれることがあります。

⚠ 警告



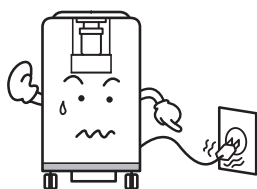
携帯電話、無線機器など、電磁波を発生する機器から30cm以上はなしてください。また電源は、これらの機器とは別のコンセントを使用してください。誤動作や故障の原因になります。



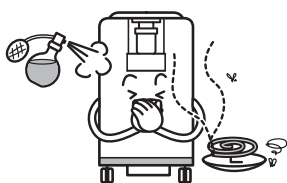
本装置の周辺で超音波式加湿器を使用しないでください。故障の原因になります。



タコ足配線はしないでください。AC100V、定格15A以上のコンセントを本装置だけで使用してください。コンセントの分岐部から発熱して発火し、火災の原因になります。



ゆるみのないコンセントを使用し、電源プラグを奥までしっかりと差し込んでください。コンセントの接触不良により、火災および故障の原因になります。



スプレーなど、可燃性ガスや腐食性ガスがある環境で使用しないでください。火災および故障の原因になります。

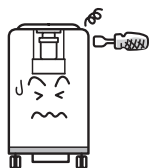


カニューラや延長チューブを踏みつけたり、折り曲げないでください。酸素を吸入できなくなります。

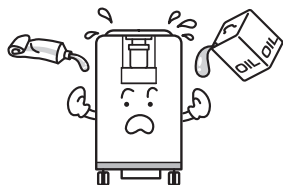


本装置を布などで覆ったり、空気取入口や排気口を塞いだりしないでください。また、カーテンなどの近くに設置しないでください。火災および故障の原因になります。

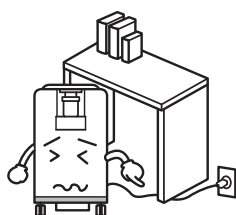
⚠ 警告



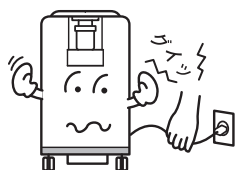
本装置を分解、改造、修理はしないでください。
感電および故障の原因になります。



本装置およびカニューラなどのチューブに、オイル、グリースまたは潤滑油類を使用しないでください。
火災の原因になります。



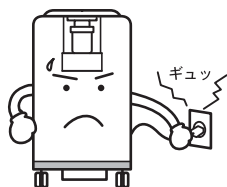
本装置の電源コードを傷つけたり、引っぱったり、本装置の下敷きにしないでください。また、電源コードの上に重い物をのせないでください。
電源コードが破損し、火災、感電などの原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを持って抜き差ししないでください。
感電やショート、発火の原因になります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因になります。



電源プラグは、根元まで確実に差し込んでください。
コンセントとプラグのすき間にホコリがたまると絶縁不良となり、火災の原因になります。

定期的に、コンセントの差込口周辺や電源プラグのすき間のホコリを掃除してください。

ホコリがたまると絶縁不良となり、火災の原因になります。

警告

本装置にて酸素吸入する前および吸入中は、油性のローションまたは軟こうは使用しないでください。

やけどおよび火災の原因になります。

本装置を運転しているとき、カニューラを外した状態で寝具やクッションなどの上に置かないでください。

酸素を吸入していないときは、本装置を停止してください。

やけどおよび火災の原因になります。

標高1,000mを超える場所、35℃を超える温度または相対湿度75%を超える湿度で使用しないでください。

酸素流量および酸素濃度に悪影響を及ぼし、処方通りの酸素を吸入できない可能性があります。

本装置を、火のそば、ストーブのそば、炎天下、高温になった車の中など、60℃以上になるところに放置しないでください。

また同様の環境下で使用しないでください。

破損・発熱・発火・破裂の原因になります。

塩害、海水、酸、アルカリ、腐食性ガスなどの環境では、本装置を使用しないでください。

腐食する可能性があります。

本装置は、AC100V 50-60Hzで使用してください。

破損・発熱・発火・破裂などの原因になります。

お子様や乳幼児が触れたり、操作しないように注意してください。

取りはずしのできる部品などを誤飲する可能性があります。

本装置にて酸素を吸入している間は、清掃・点検・保守などのお手入れは行わないでください。

 警告

患者さまの病状に応じた酸素吸入をするために、必ず医師の処方にしたがって使用してください。また、取扱説明書に記載された付属品を必ず使用してください。

本装置を使用中に体に異常があらわれたときは、医師へ連絡してください。

ご自身の症状を伝えることができない患者さまには、必要に応じて、モニタリング装置を使用してください。

本装置を他の機器と隣り合わせに設置することは避けてください。
隣接する必要がある場合は、本装置と他の機器が正常に作動することを確認のうえ使用してください。

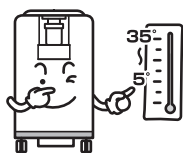
電源コードを電源コードフックに巻き付けたまま使用しないでください。

⚠ 注意

本装置を設置するときは、次のことに注意してください。



傾斜、振動のない安定した場所で使用してください。

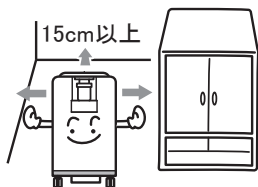


低温下で保管していた場合は、常温になじませてから使用してください。

(周囲温度5～35℃、湿度範囲30～75%RH)



屋外から屋内に持ち込むときは、温度差により結露を生じさせないように注意してください。



本装置の吸排気を妨げないように、周囲に15cm以上の空間をとってください。

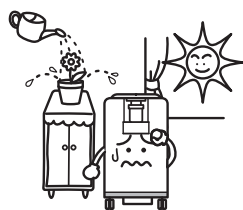
本装置と床面の間に物を置かないでください。



湿気やホコリ、タバコの煙、線香の煙、油煙(台所の近く)のあたる場所で使用しないでください。

本装置は、汚染された空気や煙のないところに設置してください。

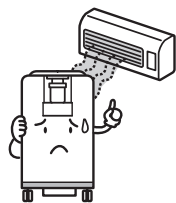
本装置には、空気清浄機能は備えられていません。



直射日光の当たる場所や、水や液体のかかる場所では使用しないでください。故障の原因になります。

水や液体がかかった場合は、電源プラグを抜いて、緊急連絡先に連絡してください。

⚠ 注意



エアコンなどの風が直接当たる場所では使用しないでください。



物が落ちてくる可能性のある場所では使用しないでください。

必ずキャスタをロックして使用してください。

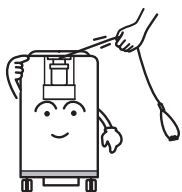
キャスタをロックしたまま移動しないでください。

本装置の電源コード、カニューラまたは延長チューブに足を引っ掛けると、ケガや転倒の原因になります。十分に注意して設置してください。

本装置を使用するときは、次のことに注意してください。

本装置の近くでテレビやラジオを使用しないでください。テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

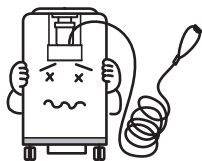
付属品以外の物を使用すると、本装置の性能が低下する可能性があります。必ず付属品を使用してください。



カニューラ、延長チューブを接続したときは、軽く引っ張り、抜けないことを確認してから使用してください。

患者さまに適したサイズのカニューラを使用してください。

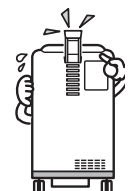
⚠ 注意



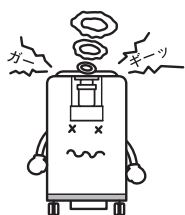
カニューラを含む延長チューブは、15m以内で使用してください。
15mを超えて使用すると、酸素が十分に供給できない場合があります。



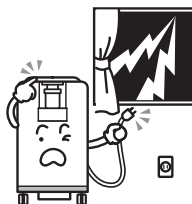
空気取入口フィルタにホコリがたまったり、湿ったまま使用しないでください。
故障の原因になります。



空気取入口フィルタを外したままで使用することは絶対におやめください。



本装置から煙、異常音、においなどがあるときは、すぐに装置の運転を中止して、緊急連絡先に連絡してください。



使用中に雷が鳴っているときは、はやめに電源プラグをコンセントから抜いて、緊急用の酸素ボンベを使用してください。



長時間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因になります。
長期間(1カ月以上)ご使用にならない場合でも、装置の性能維持のために月に1度は24時間、装置を運転してください。

装置内に異物を差し込まないでください。

 注意

運転中は、常にカニューラや延長チューブに傷や破れ、折れ曲がりがないことを確認してください。

本装置の上に物を置かないでください。

本装置の運転中は、装置本体を移動しないでください。

加湿器は、必ず洗浄してから使用してください。

加湿器の加湿ビンキャップを正しく締め、本装置に装着の際には、『カチッ』と音がするまで押し込んでください。
正しく装着しないと酸素が漏れるおそれがあります。

加湿器には精製水を使用してください。精製水は薬局でお求めください。

精製水は加湿ビンに表示されている[上の水位]から[下の水位]の範囲で入れてください。

[上の水位]を超えて水を入れると、装置の故障の原因となります。
また、[下の水位]より水が少ない場合には、酸素が十分に加湿されません。

1日以上装置を使用しない場合には、加湿器の精製水を捨ててください。精製水を入れたまま長時間放置しておくと、細菌などの繁殖の原因となります。

⚠ 注意

加湿器を洗浄するときは、食器用洗剤等を使用し、加湿ビンキャップ内側のパッキンは外さないでください。酸素が漏れる原因となります。

アルコール、シンナー、ベンジン、漂白剤、潤滑剤などを使用しないでください。印刷が消えたり、変色する原因となります。

また、自動食器洗い機を使用しないでください。割れ・変形の原因となります。

加湿器を熱湯消毒しないでください。割れ・変形の原因となります。

装置の移動・運搬の際は、加湿器の精製水を捨ててください。

本装置は、Bluetooth通信の2.4GHz帯域の電波を使用しています。

電子レンジ、ペースメーカーなど、2.4GHz帯の電波を使用する産業・科学・医療機器、また工場の製造ラインなどで使用される移動体識別用の構内無線局やアマチュア無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）などの近くで使用しないでください。

万一、移動体識別用の構内無線局などに電波干渉が発生した場合には、すみやかに本装置の使用を停止するか、場所を変えてください。

（無線通信機能搭載モデルのみ）

● 医療スタッフの皆さまへ

⚠ 注意

- 製品および患者さまに異常が発見された場合は、患者さまに安全な状態で本体の作動を止めるなど適切な措置を講じてください。
- 本装置を使用する前に、併用する医療機器の添付文書をお読みください。

■ 医用電気機器の使用上(安全及び危険防止)の注意事項 ■

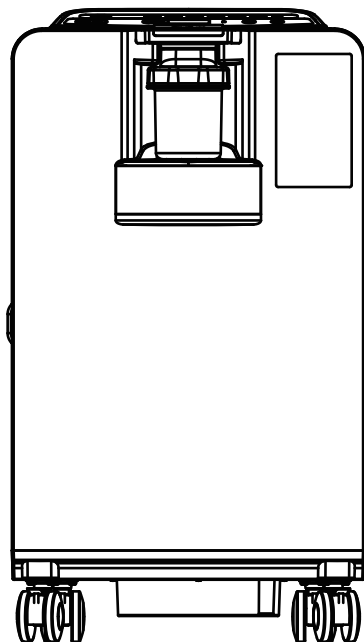
1. 熟練した者以外は機器を使用しないでください。
2. 機器を設置するときは、次の事項にご注意ください。
 - (1) 水のかからない場所に設置すること。
 - (2) 気圧、温度、湿度、風通し、日光、ホコリ、塩分、イオウ等を含んだ空気等により悪影響の生ずるおそれのない場所に設置すること。
 - (3) 傾斜、振動、衝撃(運搬時を含む)等の安定状態に注意すること。
 - (4) 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に設置しないこと。
 - (5) 電源の周波数と電圧及び許容電流値(又は消費電力)に注意すること。
 - (6) 電池電源の状態(放電状態、極性等)を確認すること。
3. 機器を使用する前には次の事項にご注意ください。
 - (1) スイッチの接触状況、極性、ダイヤル設定、メータ類等の点検を行い、機器が正確に作動することを確認すること。
 - (2) 全てのコードの接続が正確でかつ安全であることを確認すること。
 - (3) 機器の併用は正確な診断を誤らせたり、危険を起こすおそれがあるので、十分に注意すること。
 - (4) 患者に直接接続する外部回路を再点検すること。
 - (5) 電池電源を確認すること。
4. 機器の使用中は次の事項にご注意ください。
 - (1) 診断、治療に必要な量・時間をこえないように注意すること。
 - (2) 機器全般及び患者に異常のないことを絶えず監視すること。
 - (3) 機器及び患者に異常が発見された場合には、患者に安全な状態で機器の作動を止める等の適切な措置を講ずること。
5. 機器の使用後は次の事項にご注意ください。
 - (1) 定められた手順により操作スイッチ、ダイヤル等を使用前の状態に戻したのち電源を切ること。
 - (2) コード類の取り外しに際しては、コードを持って引き抜く等の無理な力をかけないこと。
 - (3) 保管場所については次の注意事項に注意すること。
 - 1 水のかからない場所に保管すること。
 - 2 気圧、温度、湿度、風通し、日光、ホコリ、塩分、イオウ分等を含んだ空気等により悪影響の生ずるおそれのない場所に保管すること。
 - 3 傾斜、振動、衝撃(運搬時を含む)等安定状態に注意すること。
 - 4 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないこと。
 - (4) 付属品、コード、導子等は清掃したのち、整理してまとめておくこと。
 - (5) 機器は次回の使用に支障がないよう必ず清浄にしておくこと。
6. 故障したときは状態を詳しく明示して、修理をお申し付けてください。
7. 機器は改造しないでください。
8. 保守点検は次の事項をお守りください。
 - (1) 機器及び部品は必ず定期点検を行うこと。
 - (2) しばらく使用しなかった機器を再使用するときには、使用前に必ず機器が正常にかつ安全に作動することを確認すること。

次のものがそろっていますか

使用前に

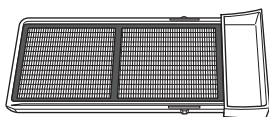
ご利用の前に、不足しているものがないか、お確かめください。
不足しているものがある場合には、すみやかに担当者までご連絡ください。

本体



付属品

●空気取入口フィルタ(予備用1枚)

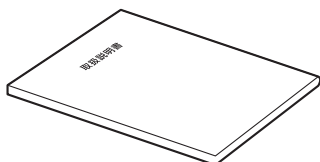


●カップラソケット(1個)

酸素出口とカニューラをつなぎます



●取扱説明書(1冊)



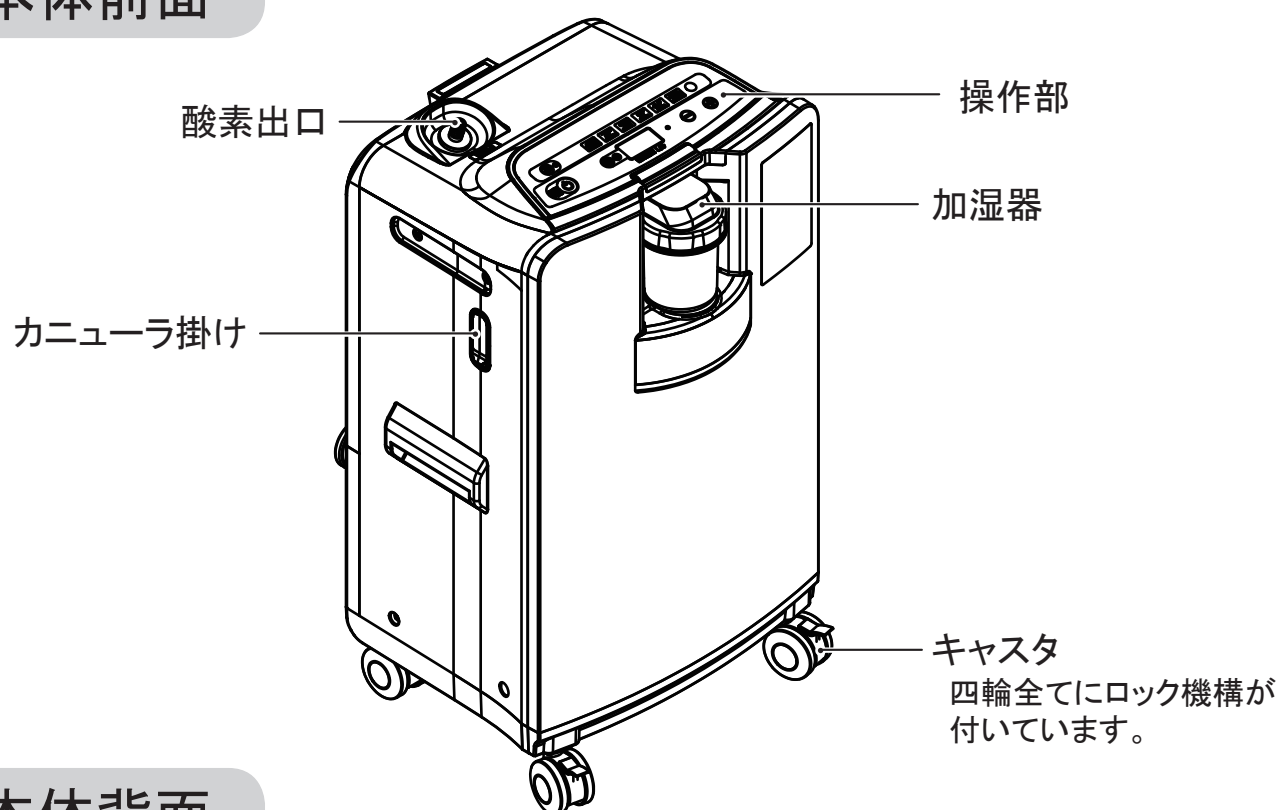
使用にあたり、最新の注意事項等を必ず確認すること

※ 酸素を吸入するためのカニューラは別売りです。
アトムメディカル製「アトム酸素鼻孔カニューラOX-20」および「アトム酸素鼻孔カニューラOX-28」
の接続を確認しています。

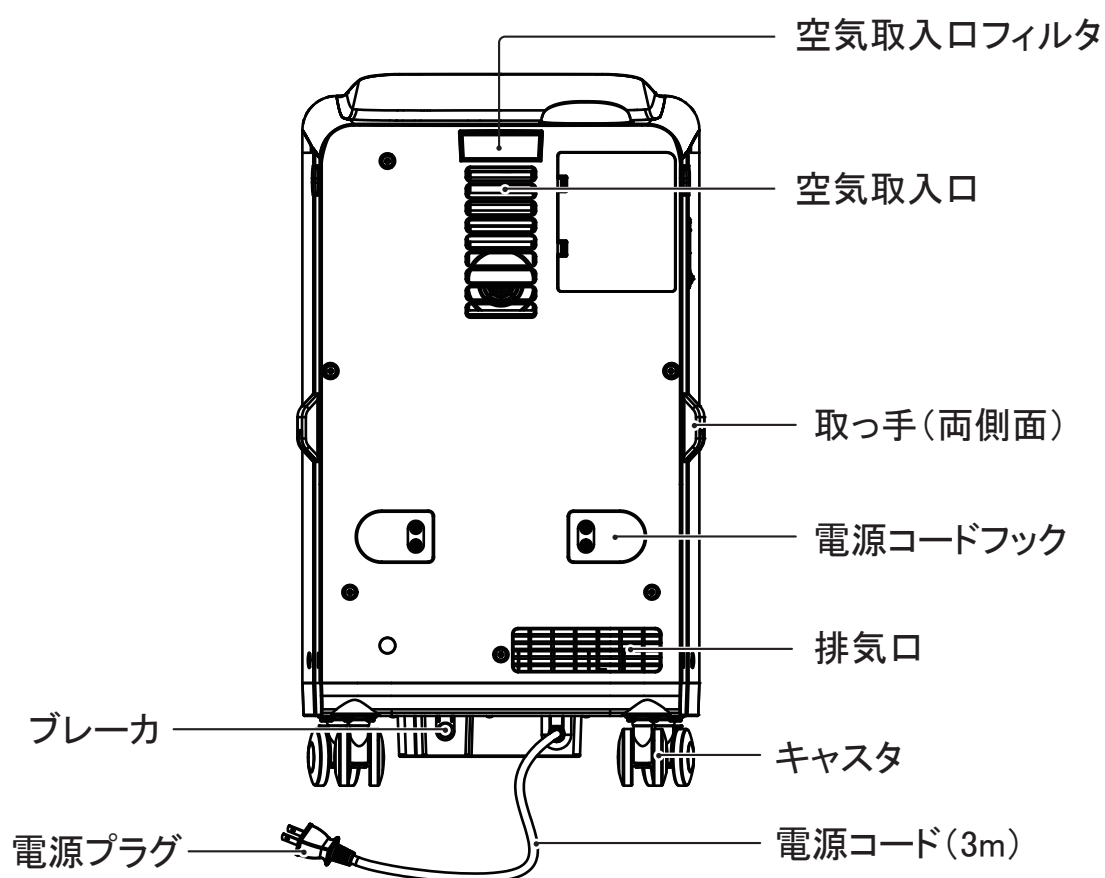
各部の名称

ご使用の前に

本体前面



本体背面



操作部

警報音停止ボタン

警報音を一時的に停止させるボタンです。
約2分間、警報音を停止します。
但し、一部の警報については、この機能は働きません。35ページをご覧ください。

警報音停止ランプ

警報音を停止しているときに点灯します。

警報表示

詳細は35～38ページをご覧ください。

始動期間ランプ

電源を入ると点灯し、規定の酸素濃度に達すると消灯します。

電源スイッチ

電源を入／切します。

チャイルドロックボタン

チャイルドロックの設定／解除をします。

チャイルドロックランプ

チャイルドロックを設定したときに点灯します。

流量設定ボタン

酸素流量を増減します。
⊕ ボタンで増加し、
⊖ ボタンで減少します。

流量インジケータ

設定された酸素流量を表示します。

酸素ランプ

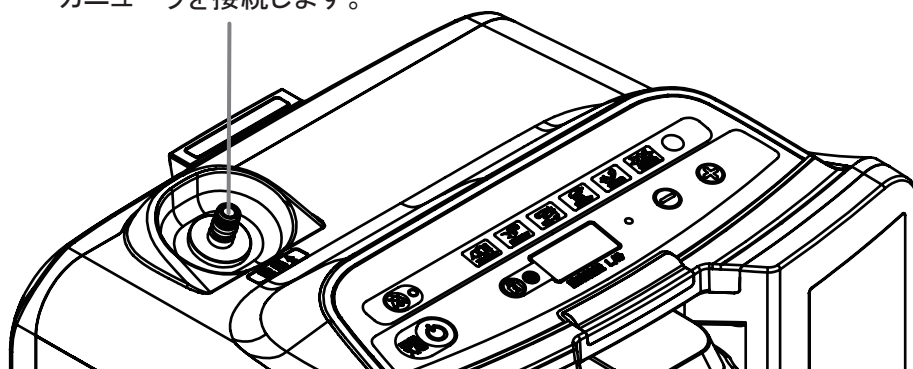
緑点灯：酸素が正常に流れています。

消灯：酸素が流れていません。

黄色点灯：対処が必要なトラブルが発生しています。

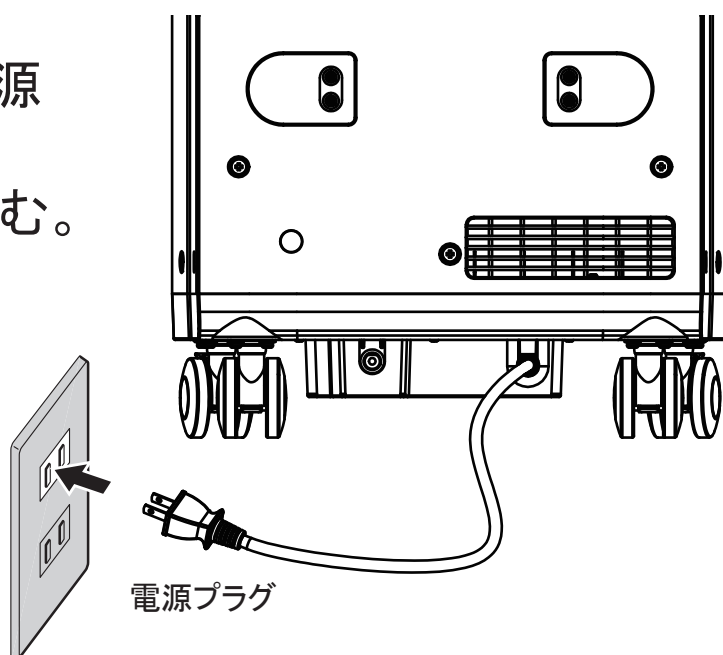
酸素出口(装着部)

カップラソケットを介して、カニューラを接続します。



準備（電源を接続する）

- 1 電源プラグを家庭用電源コンセント(AC100V)に奥までしっかりと差し込む。



- 電源プラグ操作の妨げにならないような空間を設けて、本装置を設置してください。

⚠ 警告

- 電源プラグは、根元まで確実に差し込んでください。コンセントとプラグの間にホコリがたまると絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 電源コードを電源コードフックに巻き付けたまま使用しないでください。

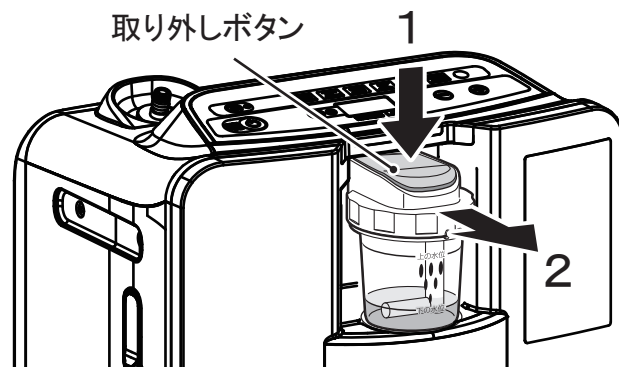
- 2 医師の指導に従い、酸素に加湿が必要な場合は、加湿器に精製水を入れる。

- 「準備（加湿器をセットする）」(20ページ参照)

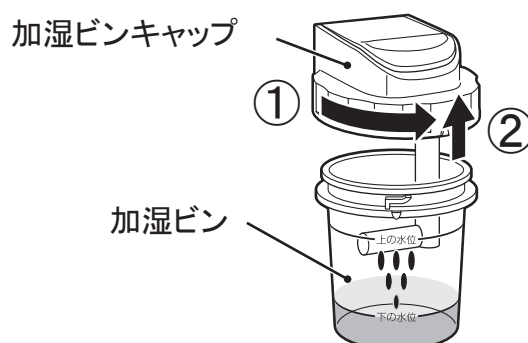
準備（加湿器をセットする）

- 1 加湿器の取り外しボタン（茶色）を押しながら、加湿器を手前に引く。

●運転中に取り外した場合、酸素ランプが消灯します。
また、外したままの状態が続くと警報（38ページ参照）が作動がします。

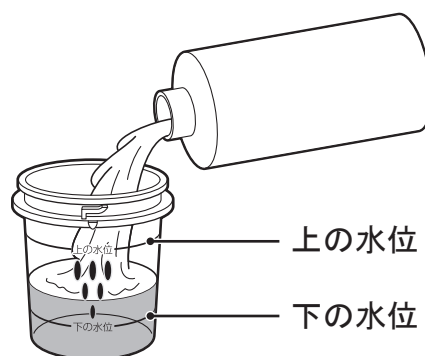


- 2 加湿ビンを手で持ち、加湿ビンキャップを①の矢印の方向に回して外す。



- 3 加湿ビンに精製水を入れる。

●加湿器の精製水は、1週間に2～3回交換してください。
また、精製水が加湿ビンの「下の水位」より少なくなる前に補充してください。



■精製水を交換する場合

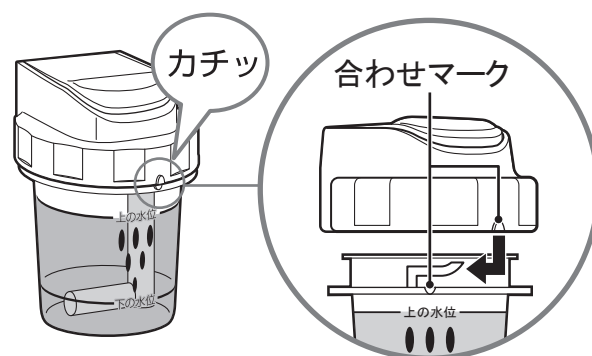
- ・加湿ビンキャップ、加湿ビンを、それぞれ食器用洗剤等を使用し、手洗いで洗浄してください。
- ・加湿ビンに新しい精製水を入れます。

■精製水を補充する場合

- ・加湿ビンに精製水を補充してください。

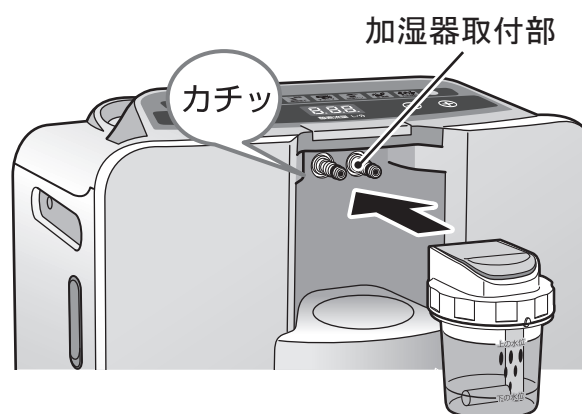
4 加湿ビンキャップをはめてから、『カチッ』と音がするまで矢印の方向に回す。

- 加湿ビンキャップと加湿器の[合わせマーク]が合っているか確認します。



5 装置本体の加湿器取付部に、加湿器の2つの穴を合わせ、『カチッ』と音がするまで押し込む。

- 運転中に取り付けた場合は、酸素ランプが緑色に点灯します。加湿器外れ警報が作動している場合は、警報は解除されます。



準備（加湿器をセットする）

注意

- 加湿器は、必ず洗浄してから使用してください。
- 加湿器の加湿ビンキャップを正しく締め、装置に装着の際には、『カチッ』と音が出るまで押し込んでください。正しく装着しないと酸素が漏れるおそれがあります。
- 加湿器には精製水を使用してください。精製水は薬局でお求めください。
- 精製水は加湿器の加湿ビンに表示されている[上の水位]から[下の水位]の範囲に入れてください。
[上の水位]を超えて水を入れることは、装置の故障の原因となります。
また、[下の水位]より水が少ない場合には、酸素が十分に加湿されません。
- 1日以上装置を使用しない場合には、加湿器の精製水を捨ててください。精製水を入れたまま長時間放置しておくと、細菌などの繁殖の原因となります。
- 加湿器を洗浄するときは、食器用洗剤等を使用し、加湿ビンキャップ内側のパッキンは外さないでください。酸素が漏れる原因となります。
アルコール、シンナー、ベンジン、漂白剤、潤滑剤などを使用しないでください。
印刷が消えたり、変色する原因となります。
また、自動食器洗い機を使用しないでください。割れ・変形の原因となります。
- 加湿器を熱湯消毒しないでください。割れ・変形の原因となります。
- 装置の移動・運搬の際は、加湿器の精製水を捨ててください。

準備（カニューラを接続する）

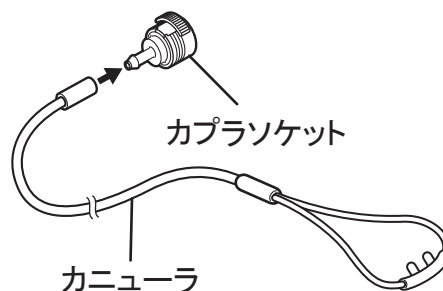
1 カプラソケットにカニューラをつなぐ。

●カニューラ

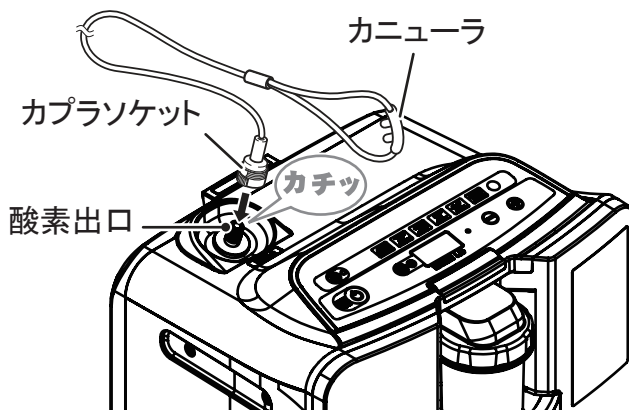
酸素を吸入するためのカニューラは、別売りです。

アトムメディカル製「アトム酸素鼻孔カニューラOX-20」および「アトム酸素鼻孔カニューラOX-28」については、本装置での動作を確認しています。

※その他の酸素吸入用具についても、軽く引っ張り、抜けないことをご確認いただければ、ご使用いただくことができます。



2 カプラソケットを、『カチッ』と音がするまで酸素出口に差し込む。



⚠ 注意

- カニューラ、延長チューブを接続したときは、軽く引っ張り、抜けないことを確認してから使用してください。接続が完全でないと、酸素が漏れる原因となります。

■延長チューブをご使用の場合

延長チューブ及び接続コネクタは、付属品に含まれておりません。ご使用される場合は、裏表紙の連絡先へお問い合わせください。

⚠ 注意

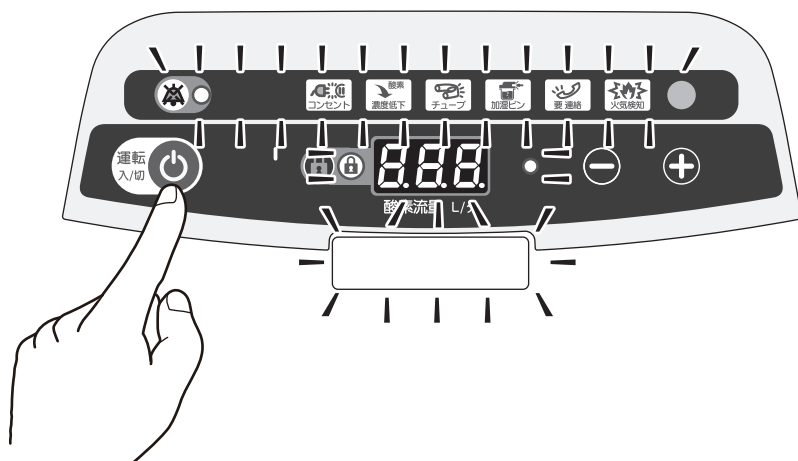
- カニューラを含む延長チューブは、15m以内で使用してください。15mを超えて使用すると、酸素が十分に供給できない場合があります。

酸素吸入

1 電源スイッチを押して、電源を入れる。

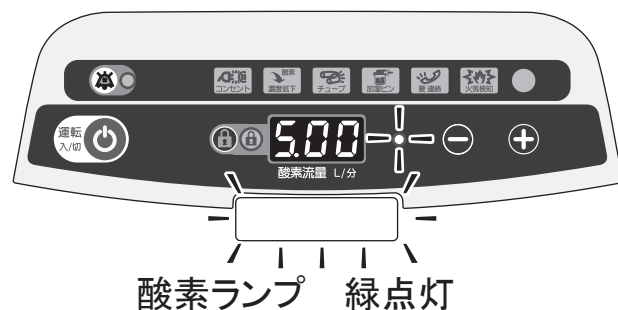
電源スイッチを、『ポーン』と音が鳴るまで押してください。

- 操作部のすべてのランプが、約2秒間点灯し、本装置のセルフチェック(警報機能含む)を行います。



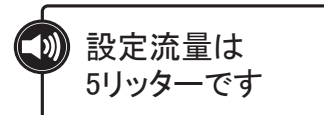
始動期間ランプ点灯

- [酸素ランプ]が緑点灯し、始動期間ランプが点灯します。



酸素ランプ 緑点灯

- 現在の酸素流量が表示され、音声メッセージでアナウンスされます。



- 電源を入れてから、約5分で規定の酸素濃度に達します。規定の濃度に達すると、始動期間ランプが消灯します。



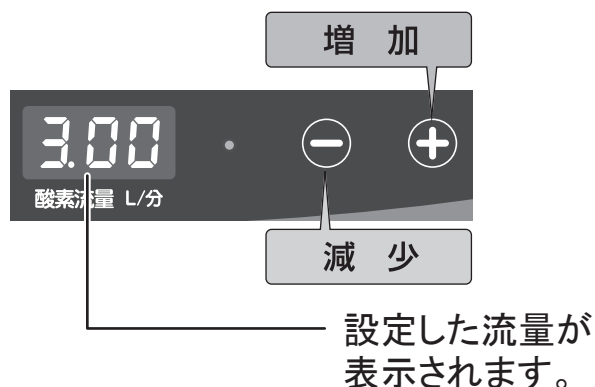
- 酸素ランプ、酸素流量の表示は、室内の明るさにより、照度が変わります。

2 医師の処方にしたがい、流量設定ボタンを押し、酸素流量を設定する。

- 流量設定は、**+** ボタンで増加、**-** ボタンで減少します。
設定した酸素流量は、流量インジケータに表示されます。



 設定流量は
3リッターです



- ボタンは、1度押すと『酸素流量を設定します』とアナウンスし、2秒以内にもう1度押すと設定流量が変更できます。(アナウンスの途中で操作してもかまいません。)
- ボタンを離してから約2秒後、設定流量が確定し、流量がアナウンスされます。

例: 3.00L/分に設定した場合、『設定流量は3リッターです』とアナウンスします。

- 流量設定範囲は、0.25 ~ 5.00L/分です。
- 処方される酸素流量は変更になることがあります。定期的に医師の診察を受けるようにしてください。

3 カニューラを装着して、酸素を吸入する。

- ご使用になるカニューラの添付文書にしたがって正しく装着してください。
装着が正しくないと治療効果に影響する場合があります。



⚠ 警告

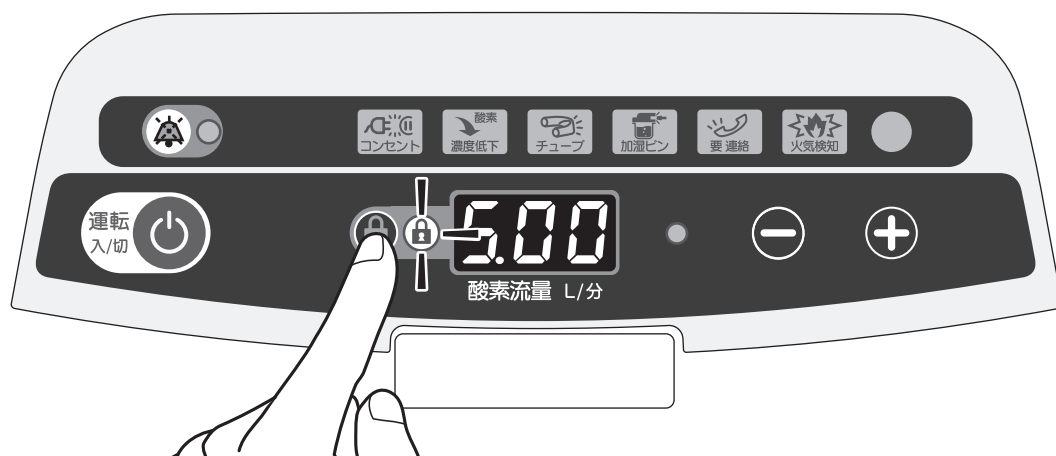
患者さまの病状に応じた酸素を吸入するために、必ず医師の処方にしたがって使用してください。また、取扱説明書に記載された付属品を必ず使用してください。

⚠ 注意

- 運転中は、常にカニューラや延長チューブに傷や破れ、折れ曲がりがないことを確認してください。
- 患者さまに適したサイズのカニューラを使用してください。

4 チャイルドロックを設定する。

チャイルドロックは、いたずらなどによる流量設定の変更を防ぐ機能です。
チャイルドロックを設定すると、流量設定ができなくなります。
(運転の停止はできます。)



- チャイルドロックを設定するときは、[チャイルドロックボタン]を[チャイルドロックランプ]が点灯するまで押し続けます。
『ピ！』と音が鳴り、ロック状態になります。
ロック状態で流量設定ボタンを押すと『ピ！ピ！ピ！』と音が鳴り、チャイルドロックが設定されていることを知らせます。
※設定流量が確定していないと、チャイルドロックは設定できません。
- チャイルドロックを解除するときは、[チャイルドロックボタン]を[チャイルドロックランプ]が消灯するまで押し続けます。
『ピ！』と音が鳴り、チャイルドロックが解除されます。
※本装置を停止させたときも、チャイルドロックが解除されます。

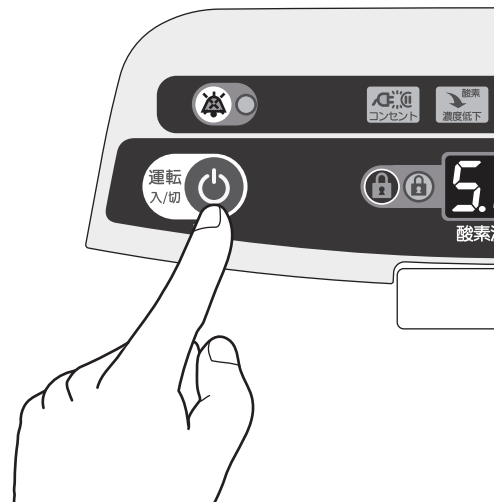
停止のしかた

1 電源スイッチを『ピッピー』と音が鳴るまで押す。

- [酸素ランプ]が点滅し、『停止します』と音声メッセージが流れます。

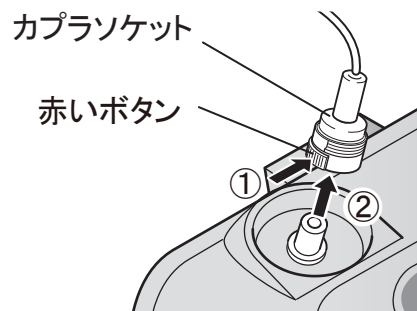
- しばらくすると、再び『ピッピー』と音が鳴り、すべてのランプが消灯して停止します。

- [酸素ランプ]が点滅している間は、電源プラグをコンセントから抜かないでください。



2 酸素出口からカニューラを外し、清潔に保管してください。

- カプラソケットの赤いボタンを押しながら上方に引っぺします。



⚠ 注意

- 1日以上装置を使用しない場合には、加湿器の精製水を捨ててください。精製水を入れたまま長時間放置しておくと、細菌などの繁殖の原因となります。
- 長時間使用しない場合、電源プラグをコンセントから抜いてください。

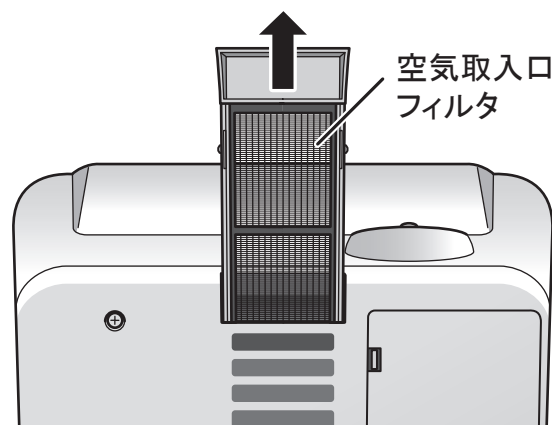
お手入れ

● 毎日行っていたきたいこと

＜空気取入口フィルタの清掃＞

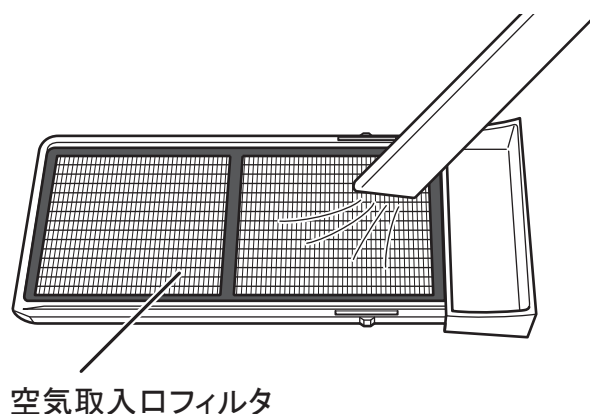
本体背面の空気取入口フィルタを引き出し、付着したホコリを掃除機で取り除いてください。

清掃後は、元の位置に取り付けてください。裏返しでは正しく取り付けられません。



⚠ 注意

- 空気取入口フィルタのお手入れは、本体の電源を切ってから行ってください。



＜日常の点検＞

- 外装の傷・破損・汚れがないことを確認してください。
- 使用前に装置が正常に、かつ安全に作動することを確認してください。

⚠ 警告

- 分解・改造はしないでください。

● 1週間に2～3度行っていたきたいこと

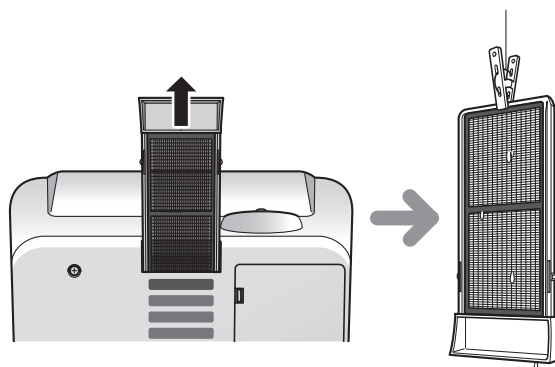
＜加湿器の洗浄と精製水の交換（加湿器を使用する場合）＞

残っている精製水を捨て、加湿器を洗浄してから、精製水を入れてください。

● 1週間に1度行っていただきたいこと

＜空気取入口フィルタの洗浄＞

空気取入口フィルタは、週に1度は水洗いをして、十分乾燥させてから使用してください。



- 乾燥させている間は、予備の空気取入口フィルタをご使用ください。
- 洗浄・乾燥後は、元の位置に取り付けてください。裏返しでは正しく取り付けられません。

⚠ 警告

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。

⚠ 注意

- 湿ったままの空気取入口フィルタを使用することは絶対におやめください。

● 定期的に行っていただきたいこと

＜コンセントの差込口周辺とプラグの清掃＞

コンセントの差込口や電源プラグのゴミやホコリを、掃除機などで取り除きます。

⚠ 警告

- コンセントの差込口周辺や電源プラグのすき間のホコリを掃除してください。ホコリがたまると絶縁不良となり、火災の原因になります。

● 本体のお手入れ

電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてから、乾いた布か、よく水を絞った布で拭いてください。



⚠ 警告

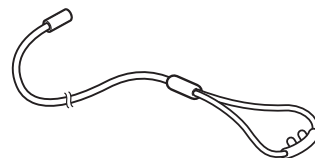
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。

お願い

- アルコール、シンナー、ベンジン、漂白剤、潤滑剤などで拭くと、印刷が消えたり、変色したりすることがありますので、使用しないでください。

● カニューラのお手入れ

ご使用になるカニューラの使用方法にしがたい、お手入れをしてください。



お手入れ・その他

● 保管について

- 周囲温度が5℃から35℃の場所で、直射日光の当たらない場所に保管してください。
- 湿気の多い場所には保管しないでください。

⚠ 注意

- 装置の上には物をのせないでください。
- 長期間ご使用にならない場合には、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。その場合でも、月に1度は24時間本装置を運転してください。

- 保守・点検

保守・点検は、業者が定期的に実施します。

- 廃棄について

本装置を廃棄する場合は、裏表紙の連絡先までご連絡ください。

仕 様

クラス分類	: クラス II (管理医療機器)
一般的名称	: 酸素濃縮装置 (特定保守管理医療機器)
機種型式	: SHOT5LC-2A (無線通信機能非搭載) SHOT5LC-2B (無線通信機能搭載)
販売名	: O ₂ グリーン5S1
医療機器認証番号	: 302AHBZX00017A01
寸法	: 高さ625 × 幅350 × 奥行295mm
重量	: 20kg
電源	: ・定格電圧 AC100V ・周波数 50-60Hz ・電源入力 450VA ・消費電力 流量5.00L/分 240W
電撃に対する保護※	: クラス II 回 B形装着部 人
EMC	: JIS T0601-1-2:2018に適合
運転音(騒音レベル)	: 流量 5.00L/分 42dB(A)以下
(JIS T7209:2018に準拠)	流量 3.00L/分 39dB(A)以下
運転音(音響パワーレベル)	流量 5.00L/分 53dB(A)以下
(JIS T7209:2018に準拠)	流量 3.00L/分 49dB(A)以下
使用条件	: 周囲温度 5～35℃ 相対湿度 30～75%(結露なきこと) 使用気圧 900～1,060hPa(標高約1,000mまで)
設置環境	: 在宅環境を意図している
輸送及び保管条件	: 周囲温度 -10～60℃(梱包状態)

酸素流量と酸素濃度

流量設定(L/分)	流量精度	酸素濃度(%)
0.25	±0.2L/分	88～95
0.50		
0.75		
1.00		
1.25		
1.50		
1.75		
2.00		
2.50	±10%	
3.00		
3.50		
4.00		
4.50		
5.00		

酸素出口最高圧力	: 35kPa (正常状態及び単一故障状態において)
警報	: 警報表示と音によりお知らせします。 【電源供給停止】、【装置異常】、【流量異常】、【圧力異常】 【酸素濃度低下】、【チューブ折れ】、【加湿器外れ】、【火気検知】
警報の優先度	: 低優先度

●装置の仕様は予告なく、変更となる場合があります。

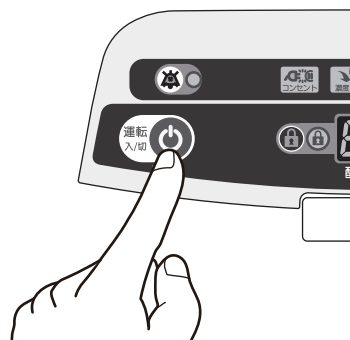
※ 回 : クラス II 機器の安全基準を満たしていることを示しています。

人 : 保護の程度がB形装着部であることを示しています。

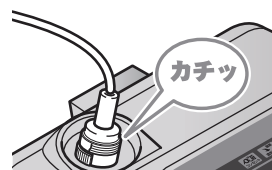
技術的な情報および納入業者が実施する保守・点検については、
「O₂グリーン5S1 保守・点検マニュアル」をご覧ください。

お手入れ・その他

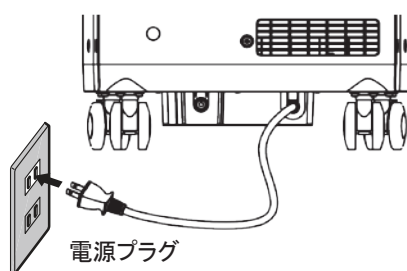
電源が入っていないときには、電源スイッチを押してください。



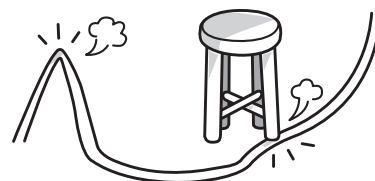
酸素出口のカプラソケットが緩んでいたり、外れているときは『カチッ』と音がするまで接続し直してください。



電源プラグがコンセントに接続されていないときは、電源プラグをコンセントに正しく接続し直してください。



カニューラ、延長チューブの折れ曲がり、つぶれている部分を直し、やぶれている場合は、新品と取り替えてください。

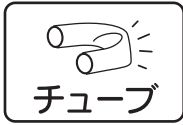


酸素が流れていない？



と思える場合には、水を入れたコップにカニューラの先端を入れ、気泡が出るか確認してください。
出ない場合には、途中のチューブ経路がつぶれていたたり、傷や穴があいていないか確認してください。
確認後は、カニューラ内部の水をよくきってください。

● 警報が表示されたら

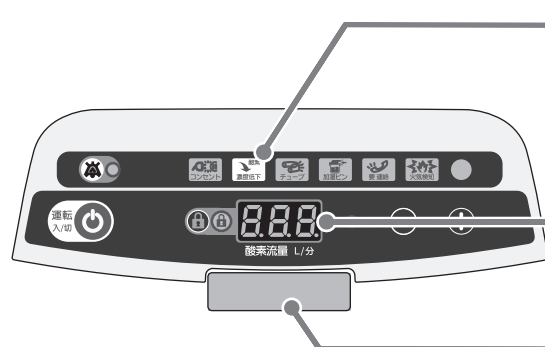
表示			原因	処置
警報表示	酸素ランプ	エラー表示		
 火気検知 ①	黄色で点灯	E.11	火気等により、異常な高温を検知しました。	身の安全を確保したうえで、緊急連絡先に連絡してください。(→P38) ※警報音停止ボタンは働きません。
 コンセント ②	黄色で点灯	E.12	電源がなくなりました。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。(→P37) ※警報音停止ボタンは働きません。
 要連絡 ③	黄色で点灯	E.01	装置の異常です。	電源スイッチを押して電源を切り、緊急用酸素ボンベをご使用になり、緊急連絡先へ連絡してください。(→P37) ※警報音停止ボタンは働きません。
		E.02		
		E.04		
		E.09		
 チューブ ④	黄色で点灯	E.06	十分な量の酸素が流れていません。	カニューラ、延長チューブが折れていないか、確認してください。(→P36)
 加湿ビン ④	黄色で点灯	E.10	十分な量の酸素が流れていません。	加湿器が外れていないか、確認してください。(→P38)
 酸素濃度低下 ⑤	黄色で点灯	E.05	酸素濃度が低下しています。	電源スイッチを押して電源を切り、緊急用酸素ボンベをご使用になり、緊急連絡先へ連絡してください。(→P36)

①～⑤: 複数の警報が発生した場合の優先順位を示しています。
 警報の履歴は、電源がなくなっても不揮発性メモリに保存されます。
 警報音量: 70dB(A)

• こんなときには

酸素濃度が低下しています。

異常を検知してから警報が発生するまでの時間は最大30分です。
酸素濃度が規定値を下回った場合に発生します。



[警報表示] :



[エラー表示] :

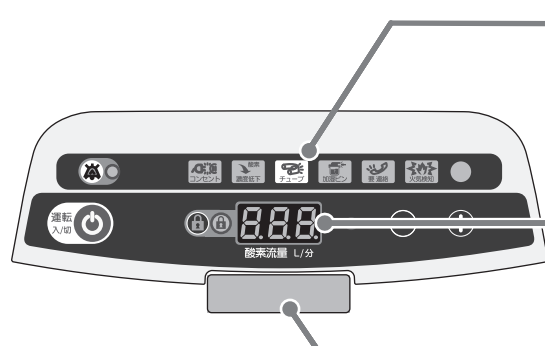


[酸素ランプ] : 黄色点灯

原因	処置方法
酸素濃度の低下です。	緊急用酸素ボンベをご使用になり、緊急連絡先に連絡してください。

酸素流量が低下しています。 カニューラとチューブ折れを確認してください。

異常を検知してから警報が発生するまでの時間は最大3分です。
カニューラ又は延長チューブが折れている場合に発生します。



[警報表示] :



[エラー表示] :



[酸素ランプ] : 黄色点灯

原因	処置方法
酸素が流れていません。	カニューラ、延長チューブが折れていないか確認してください。 



電源を切ってから、 緊急連絡先に連絡してください。

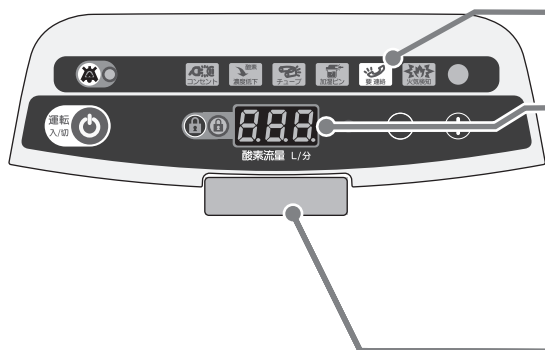
異常を検知してから警報が発生するまでの時間は最大2分です。

E.01: 装置内部の圧力が規定値を超えた場合に発生します。

E.02: 装置内部の圧力が作動圧力まで上がらない場合に発生します。

E.04: 酸素流量が規定範囲から外れた場合に発生します。

E.09: 装置内部の温度が規定値を超えた、または制御回路に異常が発生した場合に発生します。

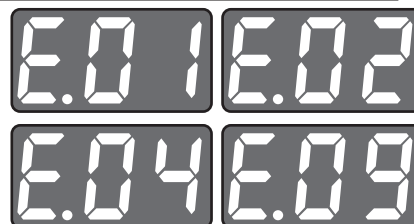


[警報表示] :



要連絡

[エラー表示] :



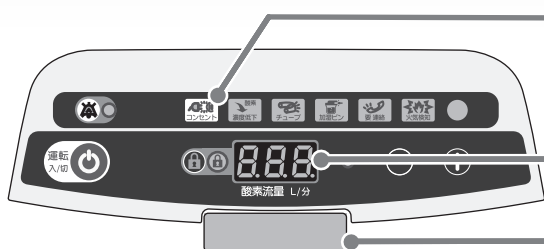
[酸素ランプ] : 黄色点灯

原因	処置方法
装置の異常です。	電源スイッチを押して電源を切り、緊急用酸素ポンペをご使用になり、緊急連絡先へ連絡してください。

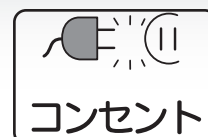


コンセントとブレーカを確認してください。

電源が遮断されてすぐに警報が発生します。



[警報表示] :



コンセント

[エラー表示] :



[酸素ランプ] : 黄色点灯

原因	処置方法
電源プラグの差し忘れや抜けです。	電源プラグがコンセントにしっかりと差し込まれているかを確認してください。
ブレーカが落ちています。	本体背面のブレーカが飛び出していたら、押し込んでください。何度もブレーカが落ちるようでしたら、緊急連絡先に連絡してください。
電源の異常です。	停電の有無や電源プラグの差し忘れを確認してください。それでも動作しないときは、緊急用酸素ポンペを使用してください。

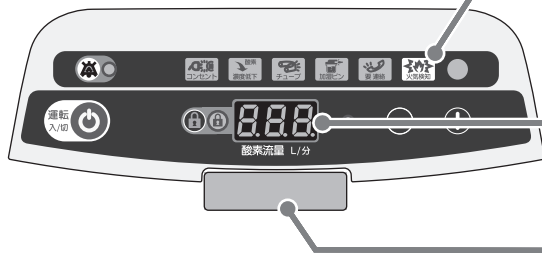


ブレーカ



火気を検知しました。
緊急連絡先に連絡してください。

酸素出口の温度が規定値を超えてすぐに発生します。



[警報表示] :



[エラー表示] :



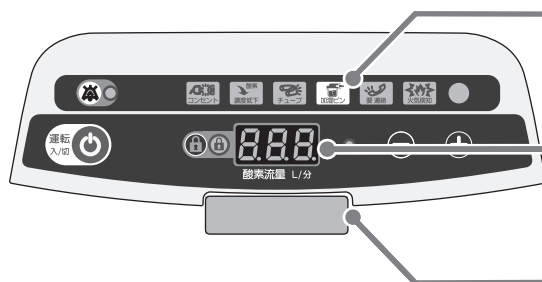
[酸素ランプ] : 黄色点灯

原因	処置方法
火気等により、異常な高温を検知しました。	身の安全を確保して、緊急連絡先に連絡してください。



酸素流量が低下しています。
加湿器を確認してください。

異常を検知してから警報が発生するまでの時間は最大3分です。
加湿器の取付けが不十分な場合に発生します。



[警報表示] :



[エラー表示] :



[酸素ランプ] : 黄色点灯

原因	処置方法
加湿器がきちんと装着されていません。	加湿器を『カチッ』と音がするまで押し込んでください。
加湿ビンキャップが緩んでいます。	加湿ビンキャップの[合わせマーク]と、加湿ビンの[合わせマーク]がしっかり合うよう締め直します。

● 故障や異常のときは

「酸素が出てこない」、「警報とランプが異常を知らせたら」(34～38ページ)の方法で異常が解消できない場合は、装置の故障が考えられます。ただちに使用を中止し、緊急連絡先にご連絡ください。

< 緊急連絡先 >

● 下記の連絡先または、装置に表示されている緊急連絡先にご連絡ください。

連絡先シール貼付位置

販売

製造販売業者

エア・ウォーター・メディカル株式会社

〒350-1165 埼玉県川越市南台一丁目5番地1

- 取扱説明書に乱丁・落丁などございましたら、お手数ではございますが、取扱店までご連絡ください。
- 取扱説明書の全部または一部を無断で転載、複製することを禁止します。
- 取扱説明書の内容については、将来予告なしで変更することがあります。

LZ1280-2